



# 感染症とたたかう

発行:国立大学法人 長崎大学 監修:長崎大学病院 感染制御教育センター長・教授 泉川 公一  
お問い合わせ:長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL:0120-095-819 FAX:095-819-2960

## 風疹の流行範囲が拡大中！ 妊婦さんは特にご注意を



### 感染力が強い「風疹ウイルス」 長崎県内でも感染者が発生

関東エリアを中心に、風疹の患者数が急増しています。前回流行した2012年末～13年には全国で1万4000人を超える患者が出ましたが、今年は7月下旬ごろから関東地方を中心に患者数の増加が報告されており、11月中旬で、すでに2000人以上が感染しています。

風疹は「風疹ウイルス」によって感染する疾患で、熱が出たり、身体のいろいろなところにポツポツとした発疹がでたりします。子どもより大人の方が、関節の痛みなどの症状が激しい場合もあります。

風疹の怖さの一つは、感染力の強さです。20世紀初頭に大流行し、世界中で約1億人が死亡した「スペインかぜ」の2倍以上の感染力を持っています。長崎県内でも、11月下旬に、今年2人目の感染者が報告されましたが、年末・年始の里帰りなどで、首都圏のように流行が広がる恐れもあります。

妊娠中の女性が風疹にかかると、目や耳、心臓などに障がいが見られる「先天性風疹症候群(2ページに関連記事)」の新生児が生まれる可能性があります。そのため1977年から、女子中学生へのワクチンの接種がスタートしました。

その後、予防接種に関する法律が何度か改正され、男女とも接種することになったり、接種年齢が変わったり、学校での集団接種から、各自で接種を受けに行くやり方に変更されたりしながら、現在は麻疹と風疹との混合(MR)ワクチンを、1歳頃と小学校入学前に接種する体制になっています(2ページ表)。

### 予防接種の“すき間”にあたる 30～50歳代の男性はご用心

このように、風しんワクチンの接種は何度かの法改正を経たため、1度も予防接種を受けておらず、また風疹に罹ったこともない、あるいは受けていても1回だけで、感染を防ぐ力が十分でない人が30歳代後半～50歳代半ばの男性を中心に相当数います(2ページ表)。そこで国は、1962年4月2日～79年4月1日に生まれた男性約1610万人を対象に、2019年1月～22年3月までの約3年間、抗体の有無を調べる検査とワクチンの接種を原則無料とすることを決めました。

過去に風疹に罹ったことがなく、風疹の予防接種を受けた記憶もないという方は、かかりつけ医に相談してください。ワクチン接種はあなた自身を守るためだけでなく、あなたの周囲の人を守るためのものでもあるのです。



## 「先天性風疹症候群」を防ぐために



妊娠中の女性(特に妊娠20週頃まで)が風疹に感染すると、赤ちゃんが「先天性風疹症候群」にかかる可能性があります。

妊婦健診で行う血液検査で、風疹に罹りやすいかどうか(抗体量が十分かどうか)が判りますが、風しんワクチンは「毒性を弱めている」とはいえ風疹ウイルスそのものなので、妊娠中に接種することはできません。そのため、抗体が不十分であることが判ったら、外出の際にはできるだけ人混みのなかには入らない、マスクを着用する、うがいや手洗いを欠かさないなど、風疹をうつされないための行動が必要です。

妊婦さんだけでなく、夫や同居家族も、妊婦さんに風疹をうつさないための十分な注意が必要です。風しんワクチンは過去に法律が変わったことによって、1回も受けていない、あるいは1回

しか受けていない方々が相当数います(表)。「妊婦さんと生まれてくる赤ちゃんを、周囲のみなが守る」意識が重要なのです。

妊娠中、もしも夫や同居家族が風疹に罹っていることが判明した時は、すぐに産婦人科医に相談して下さい。産婦人科医が必要なサポートや定期検査を行うほか、生まれた赤ちゃんが先天性風疹症候群だった場合でも、小児科、眼科、耳鼻科など複数の診療科の専門医によるチーム医療で影響を抑えることができます。



### 男女別年齢別風しんワクチン<sup>(注1)</sup>接種対象の変遷

生年月日	ワクチン接種対象・回数	備考
1962年4月2日～ 1979年4月1日	女子のみ中学校で集団接種・1回	この年齢層の男性はワクチンを接種されていない
1979年4月2日～ 1987年4月1日	男女とも中学の時に医療機関を受診して接種・1回	個別接種になって接種率が激減した(女性の接種率も低い)
1987年4月2日～ 1990年4月1日	幼児期に医療機関を受診して接種・1回	同上
1990年4月2日～ 1995年4月1日	幼児期の接種に加えて、高校3年の時にも接種 <sup>(注2)</sup> (合計2回)	2回目(高校3年)の接種率は低かった
1995年4月2日～ 2000年4月1日	幼児期の接種に加えて、中学1年の時にも接種 <sup>(注2)</sup> (合計2回)	この年齢層のほとんどは2回接種している
2000年4月2日以降	1歳の時と小学校就学前に接種(合計2回)	同上

(注1) 当初は風しん単独のワクチンとして開始された。1989～93年はMMRワクチンとして接種した人もいる。2006年以降はMRワクチンとして接種している。

(注2) 2008～12年に5年間限定で、中学1年と高校3年にも定期接種として接種されている。